

主催：日本経済新聞社  
共催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

企画・制作＝日本経済新聞社  
クロスメディア営業局



廃校サミット2018 日経地方創生フォーラム「廃校利用で実現する地方創生」(主催＝日本経済新聞社、共催＝内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局)が8月9日、東京・六本木の六本木アカデミーヒルスタワーホールで開催された。「廃校利用と地域経済の活性化、地方創生」をテーマに、有識者や実践企業団体の責任者などが登壇。廃校の活用事例を取り上げ、講演、議論した。

### パネルディスカッション

#### 人が自然に集まり 協力したくなる所

小谷 地域連携や地方創生からみた廃校利用の意義は、油井 モリウミアスを訪ねるのには主に小中学生で、これから人間形成がなされる年頃。地元と都会の子も大人も交えて交流する中から郷土愛が増し、プライドが高まっている。そうした地域が活性化や地方創生につながる。そうなることを感じ始めている。

### 廃校利用で実現する地方創生

尾畑 最初に地方創生や廃校活用を意識したのは、木造校舎が美しい風景に一目ぼれし、「やらねばならぬ」と思った。廃校活用は地元企業が手を挙げるのが理想だが、地方は大半が小さな企業なので、簡単ではないことも確かだ。

### 地域資源や人材を有効に活用

小谷 廃校を利用してよかったこと、苦労したことは、尾畑 旧土淵中学校は「遠野物語」発祥の地。地域の人のよさを活かすには、難しいのは地元のコミュニティや行政の調整で、これは今も続いている。

た。よかつたことは地域の拠点が復活したこと。住民が子どもを割る高齢者が多い中、ランチや運動会を開いて地域の人の新しい居場所になった。

### キーパーソンとの出合いがカギ

西田 雑誌「ブルータス」では8月に廃校の特集を組んだ。おのおのが関わった地方再生事例を紹介してほしい。

### 人が集まる場所としての廃校活用

坂口 鹿兒島県南九州市川辺町のかつねの森の学校でフレスコを再開している。土地の記憶が残る場所、向かいたいところだ。

### 山間地の廃校が記憶に残る場所

服部 喜ばしいことや建物が、次の価値を見いだせるまで、ふつとこの時間を待たせられた気分になる。

### 同時開催イベント

本フォーラム開催同日の8月9日、東京都内の廃校活用施設で特別見学会「廃校活用施設を見学してみませんか？」(主催＝廃校サミット2018実行委員会)が開催された。

### 学び合いの場が育てる 地域創生

樋口 邦史氏 守れる地域につながることを考えたが、遠野市に着目した理由だ。

### 基調講演 つながる建築 隈研吾氏

20世紀は新しい建築を造ることが経済発展の面からも奨励されたが、これからは建築を取り巻く環境や人間が主役になる「負ける建築」の時代。

### 見つかると新しいつながり

今年7月で4年目を迎えたが、国内外から多くの子どもたちが訪れて、子どもたちが夏休みに住むだけでも1週間滞在するプログラムを実施しており、森と海がつながるアース式海岸に生きる感覚を体験している。

### 事例発表① 森と、海と、明日へ。教育を通じた地域づくり 油井元太郎氏

もっている。キャンプ場や自然学校と違うのは、地元との接点があることだ。

### 旧桑浜小→体験型宿泊施設

桑浜町は東日本大震災の影響で集団移転も行われ、今後移住者を増やすことが難しい。「心のよりどころ」としての交流人口を増やして、住民参加と地域活性化の場を創りたい。

### 事例発表② 廃校を舞台に、幸せを醸す酒造り。尾畑留美子氏

佐渡島はトキが舞う自然環境に恵まれた島。1892年創業の当社は環境に寄り添った酒造りや佐渡金山での酒貯蔵を、佐渡ならではの酒造りを追求すべく、地域性を生かした取り組みを実施している。

### 事例発表③ 学び合いの場が育てる 地域創生 樋口邦史氏

東日本大震災の復興支援において、富士ゼロックスは盛岡に拠点を置き、沿岸部で診療機能を失ったクリニックの在宅医療サービスを2年にわたりサポートしてきた。

### 旧土淵中→地域づくり拠点

カレッジのコンセプトは「ふれあうように学ぶ場。交流・暮らし文化・産業創造の3つの領域で6項目のプログラムを運営しており、地域と産業の発展、人材育成への寄与を目的とする。